

能登半島地震を踏まえた質問・要望書

滋賀県知事 三日月大造 様

2024年1月24日 避難計画を案ずる関西連絡会

要 望 事 項

1. 能登半島地震では避難できないことが明らかになりました。
関電の原発では事故が頻発しています。
住民の安全を守るため、原発の運転停止を関電に求めること。
2. 少なくとも 30km 圏内では、安定ヨウ素剤を早急に事前配布すること。
3. 使用済燃料について、原発敷地内での乾式貯蔵、及び上関町での中間貯蔵計画に反対を表明すること。

日頃は県民の安全のため、琵琶湖を守るため、また、能登半島地震の支援のために職員の派遣や被災者受入れにご尽力いただきありがとうございます。

1月1日の最大震度7の能登半島地震では、志賀原発の事故の深刻さが日々明らかになり、避難計画は絵に描いた餅だということを現実が示しています。住民の安全を守るためには、原発の運転を停止するしかありません。

今回の地震では、能登半島を中心に家屋倒壊、道路の寸断、津波、土砂災害等々が発生しました。想定されていた避難はできず、被災された住民の皆さんは、長期間にわたって困難な生活を強いられています。

志賀原発では、所内の変圧器の配管が損傷し大量の油が流出し、外部電源の一部が喪失しています。非常用ディーゼル発電機も試験中に作動せず、使用済燃料プールの水は溢水し、敷地地盤では沈下や段差が生じる等々、既に多くの深刻な状況が生じています。また、18台のモニタリングポストは故障し、原発事故が重なれば放射線量を測定することもできません。今回の地震を引き起こしたのは能登半島沿岸の150kmにも及ぶ活断層です。研究者は以前からこの活断層の危険を指摘していましたが、政府の地震調査委員会は「長期評価」に含めていませんでした。

若狭では、40年超えの老朽原発3基が運転しています。地震と原発事故が重なる「原発震災」が起これば、滋賀県はもとより関西一円に甚大な被害をもたらします。避難もできず、避難計画の前提は成り立たず、多くの住民が被ばくする危険が重なります。

関電の原発では事故が頻発しています。以下に述べるように、運転開始から49年の高浜1号では、2次系の蒸気漏れ事故が発生しました(1月21・22日)。漏えい箇所のポンプや付近の配管は建設時から交換されておらず、老朽化と地震が影響した可能性もあります。

さらに、定期検査中の高浜4号では、またも蒸気発生器細管の4本に減肉が確認されました(1月22日)。最も薄くなった細管の厚みは残りわずか0.5mmでした。運転中に地震が襲えば、細管は破断し一次冷却水喪失という大事故にいたる危険がありました。

能登半島地震を踏まえ、質問と要望にお答えください。

先に文書で回答するとのことでした。申入れの日時も早期に設定してください。

質 問 事 項

1. 能登半島地震を踏まえて、避難計画について

若狭の関電の原発から 30km 圏内には、山間部の多い高島市と長浜市が含まれます。道路の寸断等で避難は困難を極めます。

現在の避難計画では、屋内退避も避難もできないのではないですか？

2. 関電の原発で事故が頻発していることについて

運転開始から 49 年となる国内で最も古い高浜 1 号では、蒸気発生器に 2 次冷却水を送るポンプ（給水ブースタポンプ）付近で蒸気漏れ事故が発生し、さらに隣のポンプでは水漏れが増加しました（1 月 21・22 日）。3 台あるポンプの内、2 台が使えない状況ですが、関電は運転を止めることなく、出力を低下したまま調査しています。ポンプや付近の配管は建設時から交換しておらず、老朽化と地震が影響した可能性もあります。

定期検査中の高浜 4 号では、蒸気発生器の細管 4 本に減肉が確認されました（1 月 22 日）。細管の厚み 1.3mm に対し、最大で 61%もの減肉が確認され、細管の厚みは残りわずか 0.5mm でした。運転中に地震が襲えば、細管は破断し一次冷却水喪失という大事故にいたる危険がありました。

住民の安全を守るため、関電に原発の運転停止を求めるべきではないですか？

3. 安定ヨウ素剤の事前配布について

安定ヨウ素剤は、学校等に備蓄されています。しかし、孤立集落等では安定ヨウ素剤を受け取ることもできません。そのため、少なくとも 30km 圏内では事前配布を早急に実施すべきではないですか？

4. 原発敷地内の乾式貯蔵、使用済燃料問題について

関電は、昨年 10 月 10 日に「使用済燃料対策ロードマップ」を公表し、福井県知事はこれを了承しました。「ロードマップ」では、原発敷地内に使用済燃料の乾式貯蔵施設を計画することを初めて表明しました。使用済燃料プールがひっ迫する中で、原発の運転を継続するためです。しかし、乾式貯蔵した使用済燃料を搬出する予定の中間貯蔵施設は決まっていません。立地地元等では、永久の核のゴミ捨て場にされるという批判や不安が強くあります。

山口県上関町で関電と中国電力が計画している中間貯蔵施設も、山口県内及び関西、全国から反対の声が強まっています。最終的には六ヶ所再処理工場に搬出するとしていますが、六ヶ所再処理工場はいまだ設工認の審査中です。完成予定は 26 回も延期され、事実上破綻しています。

知事はこれまで何度も「使用済核燃料の処理などいわゆる原子力の『静脈』部分が未整備であること、原子力発電所に対する県民の不安感が払しょくされていないことから、再稼働を容認できる環境にない」と表明しています。そのため、核のゴミを増やす乾式貯蔵や中間貯蔵に反対を表明すべきではないですか？

2024 年 1 月 24 日

避難計画を案ずる関西連絡会

（連絡先団体：グリーン・アクション/ 原発なしで暮らしたい丹波の会/

脱原発はりまアクション/ 原発防災を考える兵庫の会/ 美浜の会/ 避難計画を考える滋賀の会）

この件の連絡先：避難計画を考える滋賀の会

